

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571800277		
法人名	社会福祉法人敬愛会		
事業所名	グループホームむつみ	ユニット名	2号館
所在地	宮崎県小林市野尻町三ヶ野山 4336-74		
自己評価作成日	令和2年 5月28日	評価結果市町村受理日	令和2年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年7月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の特養施設に看護師が24時間常駐している為、急変時も看護師主治医との連携がとれ速やかに対応できている。生け花や喫茶店、売店への買い物や通所介護施設との交流によるカラオケ・アクティビティ・面会へお連れしている。お誕生日には家族との食事会や外食・施設内で手作りのお祝い食を提供している。昔ながらの季節の保存食の梅干し・らっきょ漬け・季節の漬物等職員も一諸に作成している。入居者のニーズをお聞きして墓参り、自宅訪問へお連れしている。地域の方々との繋がりも大切にボランティアの方の訪問もあり音楽・体操・手芸作品作りへの参加を楽しみにしておられる。秋は入居者・家族・職員との収穫祭を計画して家族との絆作りを行い職員との親睦深めている。退所されたご家族も参加してください。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内の特別養護老人ホームと日常的に交流に取り組む中、季節に応じた保存食作りなど、少人数でできるグループホーム独自の工夫に努めている。また、運営推進会議には、複数の家族が参加したり、家族アンケートを定期的に行うなど、家族の意向や要望を聞く体制づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に事業所別に分かりやすい理念を作成、職員間で共有し、日々のケアに活かしている。地域との交流も図りホーム内に掲示することで、ご家族や来場者にも理解して頂けるようにしている。		職員全員で話し合い理念を作成し、現状に即したケアの実践に取り組んでいる。理念を会議で振り返り職員間での共有も図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭へ見学にもお連れしている。さつまいもプロジェクト等地域活動への参加、高齢者ボランティアの方々との交流やアクティビティの方との交流を通して地域との繋がりが途切れないように支援している。		定期的に地域の高齢者ボランティアの訪問を受け入れ、利用者が好きな作業や活動しながら交流している。職員が小学校の登校時の見守り等の活動に参加し、地域とのつながりを大切にしよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	文化祭への作品作成と出品施設見学の受け入れ・体験ツアーを通して入居者の様子や認知症について地域の方々理解して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で民生委員・地域ボランティアの方ご家族等に対して利用者の生活の様子やケアの状況むつみ便りを通して説明して、報告そこでの意見を参考にケアの向上に努めている。外部評価についても報告して意見を聞いている。		毎回、家族や民生委員が複数名参加し、幅広い意見を聞く機会となっている。毎回テーマを決め話し合い、会議で出された意見は職員に報告し、サービス向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市担当課、地域包括支援センター職員にも参加して頂きご利用者の生活状況や諸活動行事などについて報告運営上の課題や処遇についての指導・助言を頂きサービスの質の向上に努めている。		定期的に行われる地域のグループホームが参加する研修会に市の担当者も参加し、日常的に交流する機会を作っている。制度に関することなど、市の担当者に直接聞いたり相談できる協力関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室とフロアー、玄関の施錠は徘徊される方がお一人おられる、センサー確認、状態に応じて玄関、通用口は施錠している。外への散策も職員が付き添い気分転換を図っている。		身体拘束の研修会や勉強会で職員の理解を図ったうえで、止むを得ず必要とする拘束については、個別にどうすれば拘束しないようにできるかを話し合い、常に改善に向けて努力している。昼間は、玄関、利用者居室のテラス側の施錠はせず、職員の見守りのもと自	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会や施設内研修でも虐待防止委員会で虐待についての理解を深めている。職員間で利用者への言動やケアについてアンケートを実施報告の義務化と指導を行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の利用者が後見人制度を活用しておられる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約書・重要事項説明書を時間をかけて説明し疑問点などその都度お聞きすることでご家族へも充分理解して頂いた上で契約を行なっている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者の不満や疑問点はカンファレンスや面会の際に相談できる体制をとっている。ご家族との懇親会や家族満足度調査を行い、意見や要望をお聞きすることで		家族会や法人が開催する家族との懇親会で直接意見を聞いたり、家族満足度アンケートをとるなどして要望や意見が出せるように努めている。出された意見等は職員で共有し、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろの勤務の中、職員間でケアについての意見を出し合い、処遇会議の中で意見や提案を出すことで処遇の統一を図っている。法人全体の運営事項については管理者が運営会議に出席して意見を述べている。		朝礼や毎月の処遇会議で出された意見は、その場で検討したり、管理者が法人の運営会議で話し合うなどして運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規定を整備し職員個々の努力やキャリアパス構築に向けた取り組みを行なっている。労働時間についても就業時間の適正化に取り組んでいる。メンタルヘルス担当を決め相談、助言する体制作りが出来ている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設事業所での合同研修会の実施や外部研修についても積極的に取り組んでいる。心身`ん職員に関してはカリキュラムに基づく新人研修、プリセプターシップを導入し入社、一年間指導者の下で業務目標設定し3ヶ月毎に評価を行い育成に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西ブロック協議会に加入して、他施設と協議する機会や研修会を行なう等サービスの質の向上に向けた取り組みを行なっている。町内のグループホーム連絡会(びつきよん会)にも参加、情報交換や研修会に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	優しい言葉がけと笑顔で接し、施設や職員に対して違和感をもたれない様努力している。利用者の表情や行動の変化に気づき、早めに訴えを傾聴に努め状況に応じてご家族に面会を依頼したり連絡してお声を聞いて頂く。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅支援事業所と連携を密にして家族の疑問点や要望や不安に対して十分な説明を行なっている。入所契約時にサービス内容や費用について分かりやすく説明を行なっている面会時に様子を報告して家族との信頼関係が得られるように努めてる。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活状況や、本人・家族のニーズを把握して暮らしの継続を視野においた、計画を立案、支援にとの組んでいる。認知症の中核症状や周辺症状行動を正しく理解し安心できる生活の提供に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合ったレクリエーション活動(読書・折紙・音楽鑑賞・散歩・パズル)を楽しんでいただいている。洗濯物たたみ・おやつ作り・お茶会等職員と一緒にこなすことも計画して楽しんで頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会・お部屋で野家族水入らずの食事会を兼ねたお誕生会など収穫祭ではご家族とともに焼肉等庭園での食事会を楽しまれた。ご家族より手作りの梅干し・甘酒の提供など利用者も喜んでおられる。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別年間計画・ふれあい活動計画を基に墓参り・外食・買い物・自宅訪問を実施、馴染みの方々とのふれ合い、特養・デイサービス・むつみ等付き合ひのあられた方々との面会にお連れしている。	季節ごとの自宅訪問や墓参り、また家族や友人等との継続的な交流が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの方と同じテーブルでお茶を飲まれたり、ソファでテレビや音楽鑑賞・お互いに気遣い頼りあえる関係が出来ている方もおられる。洗濯物たたみ・季節の野菜の選別・お菓子作り等利用者同士が一緒に出来るように声掛け職員も間に入り配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院された方や併設の特養へ移動された方へも面会に出向き、家族との関わりを持つようにしている。退去された方が永眠されたときはお通夜・告別式にも参列している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス実施時に家族・利用者の希望をお聞きして、本人の思いに気づき過ぎ去歴・生活歴に添った支援や墓参り・自宅訪問などの外出を行なっている。	アセスメントでの本人の意向や状態の把握に努め、日々のかかわりの中で、言葉や表情などから思いをくみ取るようにしている。	利用者かその人らしい暮らしを続けるために、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)のシートの一部を活用するなど、更に一人ひとりの思いや意向の把握を行うことに期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた家具や寝具・趣味の置物、テレビ等の持込みを勧めたり、ご本人やご家族の写真を飾りその人らしい居室作りに努めている。ご家族へ携帯電話でお電話されお互いに近況を話されている方もおられる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の暮らしの状況についてご家族や本人様よりお聞きして、それらの情報を基に入居後もその人らしい暮らしが継続できるように支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとにカンファレンスを行い家族も参加して頂いている。6ヶ月の見直しには看護師・栄養士も参加、生活の中で何を望んでおられるか把握に努め、ニーズ即した個別援助計画を作成している。遠方の方に関しては電話で意見・要望をお聞きして確認後書類をお送りしている。	介護計画の見直しの担当者会議には家族も参加し、関係職員と一緒に意見を出し合い計画に反映させるよう取り組んでいる。計画期間に関係なく状況の変化に応じて、介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康状態・食事摂取状況・排泄・入浴時の身体確認生活状況について確実に記録し職員間で情報共有(伝達簿)しながら心身の変化に伴い見直しが必要な場合は処遇会議以外でも話し合いの場を持ち見直しなど対応している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のニーズに応じて自宅訪問や本人ご家族での食事会の設営・ゲストルームでの家族水入らずの食事会のなど場を持つ等の支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体による体操・音楽・手芸などの活動や三味線演奏など定期的に受け入れることで入居者の暮らしの活性化につなげている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族の意向を確認した上でかかりつけ医療機関を決定している。回診月2回年一回の定期健診、月一回の定期受診にお連れしている。体調異変時には速やかに受診する等適切な医療が受けられるように支援している。ターミナル期については訪問看護ステーションとの連携も取れている。	かかりつけ医は本人、家族の希望で決めている。協力医による隔週の回診時支援と協力医以外への定期受診の送迎及び付き添いを行い、普段の状態の報告等適切な受診支援に取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態については毎日のバイタル測定の実施、併設看護師への報告、必要があればかかりつけ医の指導による医療的処置や看護を行なっている。夜間の急変時は常駐の看護師へ報告し指示をもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に出向き声掛け励ましと共に病院での状態を把握して退院時速やかに対応している。退院後の介護看護に対しては退院前の調整会議に参加して情報を収集して退院後のケアにつなげている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	週末ケアについては家族へのアンケートを実施、ターミナル期に入った時点で再度説明してご家族の意向を確認している。病状については直接主治医より家族へ説明して頂けるように配慮している。現在お一人の週末ケアの方がおられる。主治医・看護師との連携をとりながら支援している。	入居時に、家族の意向に沿って看取りに関しての具体的な意思確認書を作成し、6か月ごとに移行の確認を行い、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応・事故防止感染予防のマニュアルは整備されている。年間計画に基づき緊急時の対応やスキルアップを目的とした研修・訓練を行い実際に備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設する特養・地域住民参加による日中と夜間の合同防災訓練を年二回実施している。併設する。徳用と合同で避難経路の確認を行なっている。	併設する特別養護老人ホームと合同で年2回車いす移動の体験や、夜間の訓練を行い、改善箇所を話し合うなど災害対策に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に尊厳の気持ちをいつも持ちお一人お一人に接するように心がけている。個人情報に関する。記録物は他者の目の届かない場所に保管している。		一人ひとりの人格を尊重し、声の高さや言葉かけに配慮している。入浴やトイレの介助は、本人の希望があるときは可能な限り同性が対応できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人お一人を生活の中で把握しながらその方にあつたコミュニケーションを図り、常に寄り添ったケアを心がけている。信頼関係を築くことで、心を開き要望等と言って頂けるような環境づくりに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・就寝時間・食事・排泄・入浴等利用者のペースに合わせている。個々の生活リズムや行動パターンを把握して希望や要望を確認した上で援助している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度美容師に散髪してもらっている。要望があれば髪染めも実施している。敬老会やお誕生日・母の日行事では口紅などのお化粧品もさせてもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を収穫して選別、皮むきなどの下ごしらえをお願いしてふきの料理・うめ干し・ちまき作り・おやつ作り・菓子作りらっきょ漬け・等一緒に行なうことで食事も進み利用者からの要望の催促も聞かれる。		季節の良材を使ったつくた煮や梅干し等保存食を利用者と職員が一緒につくり、季節感のある馴染みの食が味わえるように工夫している。誕生会やおせち料理はグループホーム独自でメニューを考えて作り、食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設する特養の栄養士に寄る栄養管理を実施、食事摂取量の低下された方など補助食品やご家族の手料理持込んでもらっている。水分補給については利用者の好みに合わせて提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。義歯は洗浄後に毎晩消毒を行い。月一回の歯科検診を受けて、歯科医より指導を受けてしか受診にもお連れしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表の記入を行い個々の排泄パターンを把握して随時トイレへの誘導を行っている。オムツ装着の方に対しても随時オムツ確認を行っている。	一人ひとりの排せつパターンに合わせてトイレでの排せつを大切にした支援を行っている。個々に合わせて適切な排せつ用品を選定することで、家族の費用負担を減らせるよう取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬だけでなくきな粉牛乳、水分の摂取・おむつ装着の方に関しても二人介助でトイレへ移乗していただきトイレで排便が出来る時もある。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回の入浴を実施している。体調に応じて午前・午後対応している。浴槽に入れない方は包布を使用かけ湯も十分に行い温まっていたい。	週に2回の入浴を基本に、夏場は3回に増やすなど利用者の状態や希望に合わせた支援をしている。好みの湯温や入浴の順番に配慮したり、入浴拒否の利用者には更衣や清拭を促したりして、個々の希望に沿った支援に取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調と本人の要望をお聞きしながら希望される場所で過ごしていただいている。就寝時は常夜灯を使い分け好きな明るさで休んでいただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は職員二人で名前・日付・何時の薬か声だし確認することで誤薬の防止に努めている。下剤の服用も排便の状態で見守り調整している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る範囲での洗濯物たたみ・お膳ふき・台ふき・味見などして頂いている。季節の保存食梅干・らっきょ漬け・漬物など指導を頂きながら一緒に作っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人お一人の希望をお聞きして買い物・自宅訪問・家族との外出散髪等、季節の花見や散策・施設内のカラオケルーム・喫茶室・売店などへお連れしている。	法人施設の敷地内の庭の散歩や他施設にある売店やカラオケルーム等に日常的に出かけられるよう支援している。春は、近くの桜並木に花見に出かけたり季節感が楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭についてはご家族より預かり事務所で預かってもらい、売店での買い物など必要時にそちらより支払い、残高については毎月生活のお知らせに記入しお知らせしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もおられるが持たれない方に関しては、要望に応じてこちらから連絡を取りお話しして頂いている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿温計を設置して気温の変化に応じて室温の調節を行い、換気にも努めている。季節を感じて頂くために職員が自宅より季節の花を持ち寄り季節を感じていただけるようにしている。	共用空間には季節の花を飾ったり、自宅の居間の雰囲気を感じられるよう居心地の良い空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を変えて個々の好みの場所でお好きな方と過ごされている。家族持込のソファで読書を楽しまれている利用者もおられる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具やテレビ等の電化製品を持ち込んで頂いている。家族写真やお誕生祝いの写真一年間の振り返りの写真の提示季節の飾りつけなど心地よい空間の中で過ごしていただいている。	利用者や家族の希望により、テレビや家具が持ち込まれ、利用者の動き等に配慮し、配置している。家族写真や花などの飾りつけで温かみのあるその人らしい居室づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	PTの指導を頂き歩行訓練リハビリなど実施居室入り口ご家族より許可を頂き表札をかけて字分のお部屋だと認知して頂いている。自立した方に関してはクローゼットの中も利用者が確認しやすいように本人と一緒に整理している。			